

株式会社大石工作所

積極的な省エネや再エネ導入によるグリーンファクトリー化で カーボンニュートラル+SDGs達成へ

概要

同社は、暮らしに欠かせないエネルギーや工業製品をつくるプラント設備の製造から建設、メンテナンスまでを一貫して行う体制を構築。化学プラントを中心に、顧客や現場のニーズに沿った高品質かつメンテナンス性の高いエンジニアリングサービスを提供している。



2020年のSDGs宣言を契機に、カーボンニュートラルの取組として省エネや再エネ導入を積極的に行うなど、環境負荷を低減した「グリーンファクトリー化」を全社的に推進。加えて、オープンファクトリーや工場見学を通じて、自社の脱炭素・SDGsに係る活動の周知や地域との連携にも取り組み、「えひめSDGsアワード2023」優秀賞を受賞。敷地内には、実際にプラントで稼働していた機器を再利用して作った公園「Oishi Park」を整備し、資源再利用の一例として紹介している。



取組ポイント

SDGsにおける課題克服から省エネへ

SDGsの取組強化を検討する中、エネルギーや環境配慮に係る取組に課題がある点を認識。最初のステップとして、2020年に使用電力の可視化アプリを導入し、エネルギーの見える化を行ったことから脱炭素の取組を開始。結果を踏まえ、未使用時の3Dレーザー加工機をスリープ状態にすることで、最大需要電力は28kWから4kWとなり、2020年下半期のCO2排出量は同年上半期から33.3%削減を達成。その後、本格的に省エネ診断を受診。工場照明の間引き消灯やエアブローノズルのサイズ変更など10の改善提案全てに取り組んだ。

グリーンファクトリー化

グリーンファクトリー化に向けて、2022年に本社工場に太陽光パネル1,090枚を設置。これにより電気料金は前年比で6割減を達成。工場電力の再エネ化のみならず、経費削減にも繋がっている。また、翌年には新設の垣生工場に約1.5倍の太陽光パネルを設置し、取組を加速。晴天時は同工場使用電力の100%をカバー。また、社員の提案で、社用車として電気自動車を導入。太陽光で発電したエネルギーを最大限に活用し、環境に配慮した車を使用。



現在は、プラントに限らず水素製造装置（配管）の製造も行っており、コア技術を生かしてGX関連の製品・プラントへの展開も検討。また、今後はAIの活用も視野に、協力会社や現場の社員も巻き込みながら、さらなる脱炭素化を目指すこととしている。

企業情報

- ・事業内容 プラント設備の設計・製造・現場施工、メンテナンス
- ・所在地 愛媛県新居浜市多喜浜六丁目2番45号
- ・電話番号 0897-46-1160
- ・ホームページ <http://ois.gr.jp/>